

# AJSAA 九州 オフィシャルブリーフィング資料

## 1. 点呼

各配置の場所、ポスト長も確認。

## 2. 公式通知の伝達・出走順の確認

BM1→B2→M2→4WD→OP→団体

## 3. 無線とバイндアーの確認

無線の起動、および電池残量と予備電池の有無。

## 4. 競技開始までの動き

### ①集合

競技開始 10 分前には配置場所に向かい、5 分前には確実に配置につく。

開始時間（デモラン=マーシャル走行開始）はタイムスケジュール参照のこと、午後は 1H 終了の 1 時間後。ただし、デモラン同乗体験者は AorB 棟前に集合（後述）。

### ②備品等

旗や消火器等の備品は既に置いてあるので、お茶だけを持って移動。

服装は長袖長ズボン。ただし、春季ジムカーナ大会のみ半そでシャツを認める。赤い服、黒い服等は可能な限り避ける。コースフィシャルはワークグローブ、ヘルメットの着用。ワークグローブを忘れた場合は連盟から借りること。ダートの場合は長靴を推奨。

## 5. 旗の説明

赤旗：危険あり、直ちに停止せよ。

基本は競技長が指示する。勝手な判断で提示しないこと。ただし緊急時(転倒など選手・オフィシャルが危険な状況に陥る可能性がある場合)はポスト長の判断で出して良い。後続選手の視線の先で、全力で振ること。ただし、絶対に轆かれないように。

黄旗：ペナルティあり。

パイロンタッチ、脱輪等のペナルティがあった場合に、計時室に向けてはためかさずに掲げる。

黒旗：失格。

ミスコースやコースアウト等があった場合に、選手に向けてはためかさずに掲げる。判定の基準に関しては後述。

緑旗：コースクリア（異常なし）。

競技車両がポスト内を無事に通過した際、計時室に向けてはためかさずに掲げる。また競技開始前や、トラブル等で時間が空いた後の再開前にも、確認のため競技長の指示で掲げることがある。

日章旗：スタートのみ。スタート合図用。選手に見える位置から振り上げる。

チェッカー：ゴールのみ。ゴール合図用。車両がリタイヤや失格等にならず、完走した場合に8の字に振る。

## 6. ペナルティ等の基準

ペナルティ等の判定はポスト員が行う。ペナルティ等があった場合には、旗を掲示するとともに、ポスト長が「ポスト○、時刻、号車、ペナルティ内容」を無線で競技長に伝達。復唱されるのでその内容も確認。また、判定報告書に記入。

ペナルティ判定に選手から抗議があった場合は、競技長に申し出るように伝える。

## 7. 安全に関する事項

### ①車両・装備について

走行中の車両は運転席側の窓が完全に閉まっていなければならない。また、ボンネットやトランク等の確実な固定も必要。また、走行中の参加者が腕まくりをしていたり、グローブを適切に着用していなかったり（手首が見えていてはダメ）、ヘルメットのあご紐を締めていなかったり、シートベルトが適切に装着されていない場合は走行させてはならない。

これらに反した場合は失格もあり得るため、特にスタートオフィシャルはスターティンググリッドに並んでいる車両をよく確認しておくこと。外れそうな部品がある場合は、スタート前に競技長に連絡すること。

### ②スタートの合図

スタートの指示はすべて本部の競技長が行う。スタートのオフィシャルは競技長の指示が出るまで絶対に出走させてはならない。衝突事故や人身事故が発生する可能性がある。

### ③競技車両に轢かれない

コース内の競技車両に接近してもよいのは、

- ・必ず競技長の指示に従い、勝手な判断でコース内には絶対に立ち入らないこと。
- ・該当車両が停止している。
- ・ドライバーがリタイヤの意思表示をしている（ハザード＋手を振る）。
- ・後続車両がない。

を全て満たしている場合だけです。それ以外の場合は近づかないこと。近づく場合は、消火器を持ってドライバーから見える方向から。停止の指示を故意に無視する参加者も過去に存在したことを念頭に。

#### ④車両火災

トラブルで停止した車両に近づくときは、基本的に消火器を持って。ただし暴発させないように注意。

煙が出ている等の場合は、キルスイッチ（なければエンジン）を切ってから、ボンネット等を開けずに原因を確認すること（空気が供給されて急激に燃え上がる可能性がある）。

消火が必要と判断した場合は、ノズルを火元に向けてからピンを抜いてレバーを握ること。この際もボンネット等を開けない。

#### ⑤転倒

車両が転倒した場合、後続車両がいる場合はまず赤旗で停止させる。その後、タイヤが回っていないことを確認して転倒車両に接近。ドライバーの安否を確認し、キルスイッチ（なければエンジン）を切って、サイドブレーキを引いてもらう。

基本的にドライバーの脱出は車両を起こしてからで、それまではシートベルトを締めたままにさせる。転倒が180度、ドアが開く、シートベルトを外してもドライバーが落下しない、をすべて満たす場合のみ、先に降りることも考慮する。

車両を起こす場合は、作業者が押しつぶされないように十分注意すること。

横転した車両が一回転して走れる状態になっていても絶対に停めてレスキューを呼ぶこと。そのまま走り続けようとする選手がいたら必ず止めてください。

#### ⑥コースの異常

部品の落下、オイル漏れ、汚れ等がある場合には、競技長に連絡してください。走行車両に危険が及ぶ可能性があれば、赤旗の掲示も検討してください。オイル漏れに関しては、スタートのオフィシャルが特に注意してください。

#### ⑦暴走行為等

参加者が指示に従わない、パドック内で車両が急加速・急減速や高速移動をしている場合は、競技長に連絡してください。（タイヤのウォーミングは禁止）

### 8. 無線機発報の仕方

- ・無線機はボタンを押してから一息ついて話し始めること。同時に話し始めると会話の始めが聞き取れない。

- ・無線機は他の人が発報している時は発報しないこと。混線して聞けなくなります。
- ・電池は必ず確認すること。特にポスト2は本部から見るできないので無線機で必ず連絡を取れるようにしておく必要がある。
- ・コース無線と技術無線は分けること
- ・無線機での報告の例
  - ・ペナルティがあった場合、「ポスト〇、時刻、号車、ペナルティ内容」
  - ・トラブルがあった場合、「ポスト〇、号車、トラブル内容」

特にトラブルがあった場合、何号車にどのようなトラブルが起き、どのような状態になっているのか詳細に報告すること。

- ・悪い例「あ、捲りました。あ、戻りました。」これではどの場所で何号車が横転したのかわからない。「戻りました」の意味が、自走して戻ってきているのか姿勢が戻ったのかわからない。自走で戻しては絶対にいけない。

## 9. デモラン同乗者の確認

午前：

午後：